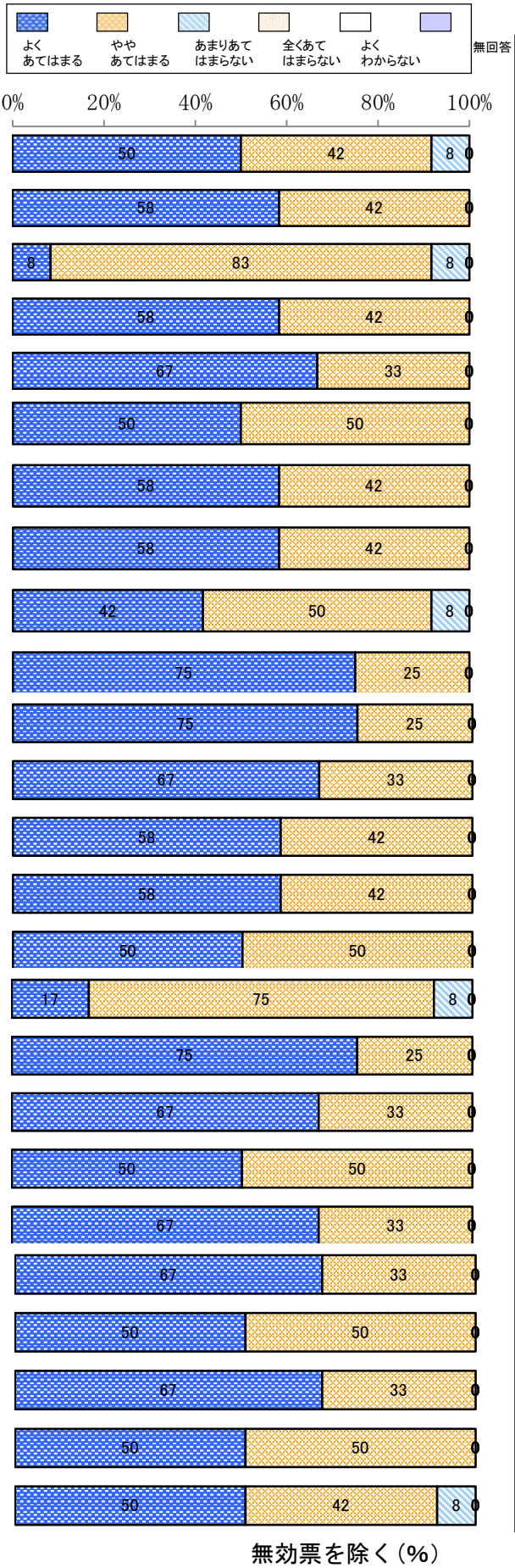


アンケートの結果				上段：児童 下段：保護者等 グラフ：教職員						
				A	B	C	D	よく分からない	無答	
学校全体の様子	1	教育目標・方針	児童・生徒や保護者等と共有できるように学校の教育目標を示し、方針を説明している。	40 36	43 55	9 6	2 0	5 3	0 0	
	2	児童・生徒の様子	児童・生徒は、明るく素直で、生き生きとした楽しい学校生活を送っている。	70 47	25 49	4 3	1 0	0 1	0 0	
	3	基本的生活習慣	児童・生徒の服装や通学態度、挨拶など基本的生活習慣がしっかりしている。	45 34	45 59	5 4	3 0	1 2	0 0	
	4	児童・生徒理解	児童・生徒の良さや努力しているところを見つけ、励まし、理解しながら一人一人の能力を伸ばすように努めている。	46 45	37 48	12 7	2 0	3 1	0 0	
	5	健康・安全・安心	児童・生徒の健康や安全（確保・対策）に配慮するとともに、主体的に行動できる防災教育を充実している。	60 47	28 42	9 10	2 1	1 0	0 0	
学力向上の取組	6	分かる授業	楽しく分かりやすい授業が実践されている。	60 41	29 51	8 5	1 2	1 2	0 0	
	7	個に応じた指導	習熟度別学習等、児童・生徒一人一人の理解の程度に応じた学習指導が行われている。	71 28	23 53	3 7	1 2	2 11	0 0	
	8	学習習慣	放課後の補充指導等を行うとともに、家庭での学習課題を提示する等、学習習慣の定着を図る工夫をしている。	57 31	29 55	10 7	2 2	1 5	0 0	
	9	情報教育	タブレットPCなど、ICT機器を活用した教育を推進しながら、情報活用能力の育成に向けて取り組んでいる。	63 40	28 47	8 8	0 1	1 4	0 0	
	10	学校図書館の活用	読書と学習に役立つ学校図書館として活用されている。	60 50	31 42	7 4	1 0	1 3	0 0	
社会性・人間性の育成	11	人権教育	自他を大切にし、偏見や差別を許さない豊かな人権感覚を育てる教育を行っている。	65 33	30 50	2 10	0 1	3 7	0 0	
	12	道德教育	生命を大切にする気持ちや他人を思いやる心、善悪の判断や規範意識を育てる等、道徳性をはぐむ教育を行っている。	50 37	32 52	10 6	3 1	4 5	0 0	
	13	教育相談	教育相談を充実し、いじめや不登校を防止する等児童・生徒一人一人の居場所がある学校づくりに努めている。	51 26	30 54	12 7	2 0	4 12	0 0	
	14	人間関係づくり	学校行事等の教育活動を工夫し、体験活動を充実させながら望ましい人間関係が築けるよう取り組んでいる。	75 66	17 33	5 2	1 0	2 0	0 0	
	15	自治的な活動	学級活動や児童会・生徒会活動等で、児童・生徒が自発的・自治的に活動できるように工夫しながら指導している。	57 51	33 42	8 2	1 0	1 5	0 0	
保護者・地域との連携	16	情報発信	学校便りや学年便り、学校ホームページ等で、保護者や地域の方に、学校の教育活動の様子を分かりやすく知らせている。	49 32	31 55	8 12	1 0	10 1	0 0	
	17	相談への対応	児童・生徒や保護者からの連絡や相談を丁寧を受け止め、適切な対応をしている。	65 43	23 47	6 7	1 0	5 3	0 0	
	18	学校への参加	学校公開週間や土曜授業日、学校行事等では、保護者や地域の方が参加しやすいように工夫している。	58 54	26 41	11 2	3 0	2 2	0 0	
	19	地域との連携	地域の行事などに協力的で、連携を図っている。	35 45	33 43	23 2	6 0	3 11	0 0	
	20	意見の反映	保護者や地域から寄せられた意見や要望を受け止め、学校運営と教育活動の改善に努めている。	57 34	33 45	3 10	0 0	6 11	0 0	
各学校の特色ある教育	21	特色ある教育活動	授業では、児童が主体的に学び、対話を通して学びを深めている。	53 30	34 55	8 7	2 1	3 7	0 0	
	22	基礎・基本の定着	マスタータイム（計算・漢字等の習熟の時間）やあらかわ寺子屋を設け、一人一人が基礎・基本の力を身に付けている。	37 27	36 50	17 11	5 0	5 12	0 0	
	23	自主的な休み時間の活用	朝休みや放課後、スーパー昼休みには、元気に体を動かしたり、図書室や学級のある本を読んだりしている。	66 47	24 44	8 4	1 0	1 5	0 0	
	24	異学年交流	なかよし班や幼稚園交流など、異学年交流の活動の充実を図っている。	57 50	29 46	10 0	2 0	2 4	0 0	
	25	外部人材の活用	外部人材を活用して、多彩な教育活動の充実を図っている。	47 23	36 56	10 3	1 1	5 17	0 0	

無効票を除く（％）



学校の自己評価（考察）	
○児童の肯定群が83%、保護者の肯定群が91%となっており、高い割合になっている。来年度は、3つのキャラクターを活用し、児童が教育目標を意識して生活できるようにうながしていく。	
○児童の肯定群が95%、保護者の肯定群が98%となっており、高い割合になっている。引き続き、児童が生き生きと楽しい学校生活を送れるよう、きめ細やかな指導や声掛けを行っていく。	
○児童の肯定群が90%。保護者の肯定群が93%と、令和4・5年度とほぼ同じ割合となっている。教員間でのおぐろくプランの共通理解、保護者への伝達を引き続き行う。	
○児童の肯定群が84%。保護者の肯定群が93%となり、児童の肯定群が4%向上した。一人一人の良さのよさを伸ばし、自己肯定感を高めていけるような指導の工夫を行っていく。	
○児童の肯定群は88%と昨年度と同様であったが、保護者の肯定群が89%と10%減少している。毎月行っている避難訓練や安全指導をしっかりやっているのので、保護者や地域にもっと周知していく。	
○児童の肯定群が89%、保護者の肯定群が91%と高い割合になっている。校内研究などを中心に、授業改善を行い、楽しく、分かりやすい授業を実践していく。	
○児童の肯定群が94%、保護者の肯定群91%であり、どちらも昨年度よりも向上をしている。保護者への周知が進んできたものと考え。引き続き個に応じた指導を行い、取り組みを周知していく。	
△児童・保護者の肯定群がともに86%であった。保護者の肯定群が6%下がっている。家庭学習の意義や大切さを、保護者会等で、教職員と保護者の共通理解を図る。	
○児童の肯定群が91%、保護者の肯定群が87%と高い割合になっている。Google スライドやフォームなどを、中学年以上で活用をしている。来年度の新しいタブレットでも、授業で活用していく。	
○昨年度と同様、児童の肯定群が91%、保護者の肯定群が92%と高い割合になっている。年2回の読書月間での取り組みや、国語科での並行読書、社会科などの調べ学習で学校図書館の活用ができていることがわかる。	
○昨年度とほぼ同様で児童の95%、保護者の83%が肯定群であった。人権標語作りや、日々の学校生活の言動について、賞賛したり、時には指導したりすることで、自他を大切にしようとする児童が多い。「よくわからない」と回答した保護者の割合は、10%から7%に減少した。	
△昨年度と変わらず、児童の肯定群が82%、保護者の肯定群が89%であった。ねらいとする道徳的価値に迫れるように授業を工夫するとともに、話し合いの時間を設け、多様な考え方に触れる機会を設ける。	
△児童の肯定群が81%、保護者の肯定群が80%と昨年度よりわずかにあがった。保護者の「よくわからない」が12%である。スクールカウンセラー等、幅広く相談できる体制であることを折に触れ伝えていく。	
○児童の肯定群が92%、保護者の肯定群が99%と非常に高い評価を得ている。様々な行事や活動を通して、望ましい人間関係を築き、仲良く学校生活を送ることができていることが分かる。	
○児童の肯定群が90%、保護者の肯定群が93%とほぼ昨年度と同じ割合である。委員会活動や学級の係活動などで、児童が自ら考えながら活動することができている。引き続き自治的な活動ができるようにしていく。	
△児童の肯定群が80%、保護者の肯定群が87%であった。一方保護者の12%が否定的な回答している。ホームページの日常的な更新や、スクリレを用いた学校だよりや学年だより等の配信を継続して行っていく。	
○児童の肯定群が88%、保護者の肯定群が90%と高い割合になっている。怪我や大きなトラブルは、素早い対応を心掛けていることが反映されていると考えている。引き続き、適切な対応をしていく。	
○児童の肯定群が84%、保護者の肯定群が95%であった。保護者の評価は昨年度と同様に高い評価であった。来年度も保護者や地域の方が参加しやすいように工夫していく。	
△児童の肯定群が68%、保護者の肯定群が88%であった。保護者の「よくわからない」の回答が昨年度よりも少し減少している。金管バンドの地域行事の参加や、児童朝会などで、地域行事の参加を呼びかけることを継続して行う。	
△児童の肯定群が90%、保護者の肯定群が79%であった。保護者の否定群が10%、「よく分からない」の回答が11%である。行事や土曜授業アンケートに書かれた意見などは、各委員会で検討している。その結果を学校だより等で周知するなど「見える化」する必要がある。	
○児童の肯定群が85%、保護者の肯定群が87%であった。校内研究では、研究主題を「自分の考えをもち、主体的・対話的に学びを深める児童の育成」とし、国語科の説明的文章の教材研究、授業の展開について学び、日々の授業に生かすことができた。	
△児童の肯定群が73%、保護者の肯定群が77%であった。児童の否定群は昨年度より2%減少、保護者は6%上昇している。多くの児童が基礎・基本を身に付けているが、マスタータイムの活用の工夫、また、マスタータイムの学習の様子等を保護者に伝えることが必要である。	
○児童、保護者の肯定群が90%と高い割合となっている。休み時間には、校庭で遊んだり、学校図書館で本を読んだりして楽しく過ごしている様子がうかがえる。保護者も休み時間の児童の様子を理解していると考えられる。	
○児童の肯定群が85%、保護者の肯定群が96%であった。児童は昨年度とほぼ同じであるが、保護者の肯定群5%上がっている。保護者会やホームページ等で伝えてきたことで、保護者が取り組みを知るきっかけとなったと考える。	
△83%の児童が肯定的評価をしている一方で、保護者の「よく分からない」の回答が17%と、昨年度とほぼ同じ評価となった。外部人材を活用した際には、ホームページや学年だより等で周知を図っていくことを継続して行う。	